

令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『ぼちぼち山業で豊かな生活スタイルで暮らしている
人を増やす』

活動団体の活動地域：高知県大月町

活動団体名：NPO法人大月地域資源活用協
議会

中間支援主体名：四国海と生き物研究室

活動団体と地域の紹介

地域の現状と課題

- ・農業、漁業が盛んな地域
- ・ダイビングのメッカと呼ばれるくらいきれいな海があり、地上からもサンゴ礁を見ることができる
- ・林業従事者の不足によって、間伐等が進まない荒廃林が増えている
- ・木を伐る仕事だけで家族を養うのは大変
- ・雑木林の活用がされていない

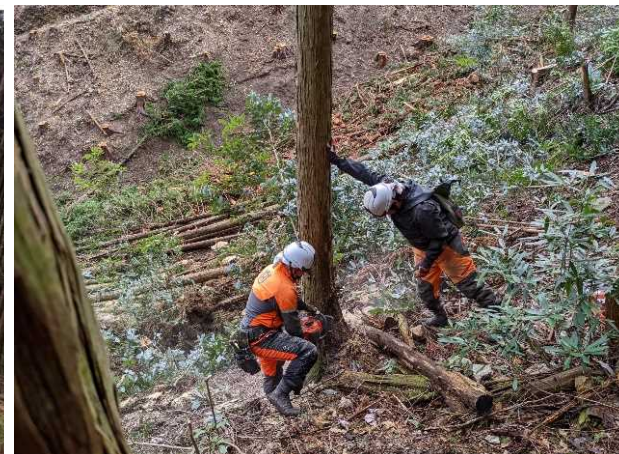


資源

- ・森林,山林資源→原木市場で取引されない広葉樹などは隣の市のチップ工場へ持っていかれる
- ・大月町備長炭生産組合や森林組合、小規模林業従事者のような大月町の森林資源で生計を経てる団体、個人
- ・多様な移住者：こういうことがしたい！という意志があり、生活の中で実践している

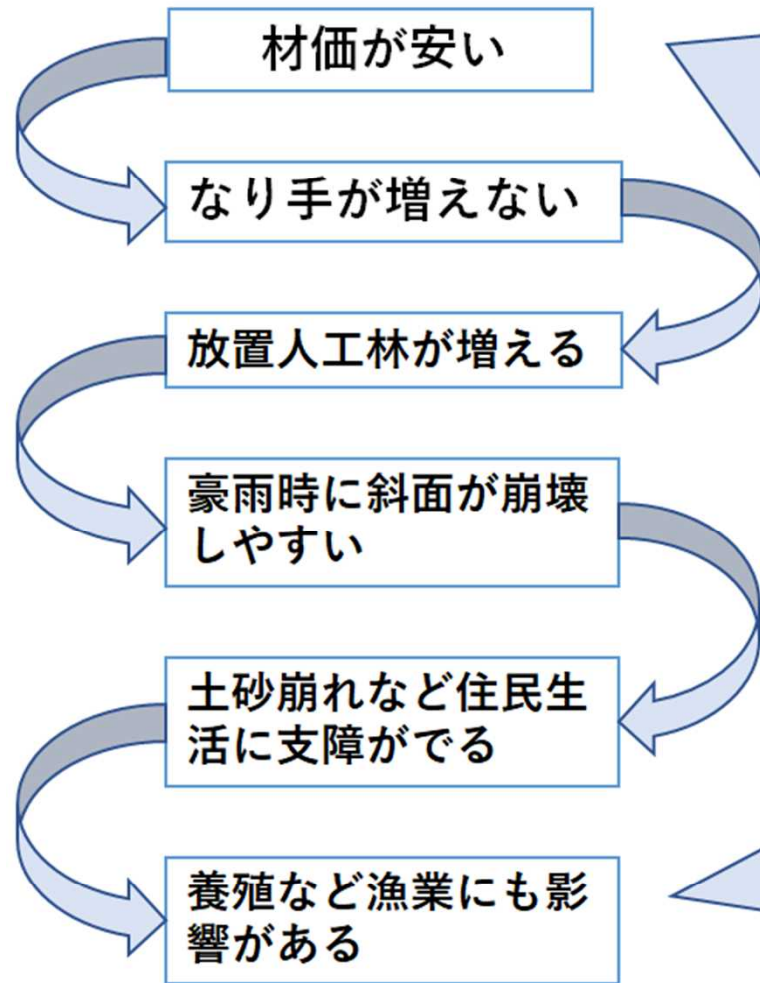
活動団体の紹介

四国の西南端、大月町でこれまで「当たり前なもの」として見過ごされてきた地域の宝を探し、その恵みを次世代へ渡すために色々な取り組みを支えています。美しい海で楽しむクリアカヌー、観光ガイド、自伐型林業、へんろ古道活用、お遍路さんと地域住民との交流所「よっちみたや」、国際的な芸術文化交流など、お金に換算できない、統計には表れない「豊かさ」も伝えていこうとしています。



活動計画（概要）

大月町における林業の現状



- ・森林率78%（広葉樹が約60%）
- ・放置人工林の間伐は主に森林組合が実施
- ・ひとり親方の林業従事者は皆伐施業が主
- ・優良材は宿毛の共販所に出荷
- ・C材はパルプ用材または木質バイオマス発電所へ（買取価格の割に売り先が遠いため経費がかさむ）
- ・放置人工林はC材が多いので伐ってもお金になりにくい
- ・施業しようと思っても山主さんにたどり着かない
- ・自伐型での施業にあたって、補助金を活用しようとするると更に作業が多く心がおれる
- ・山主さんが山に関心がない

泥水が海に流れると

- ・目の色が白くなり商品価値が下がる
 - ・塩分濃度が下がるため魚が死ななかつたとしても身が割れ商品価値が下がる
- ここ数十年で海の状態は悪いほうへ変化している（養殖関係者より）

自然環境・生活・経済活動に影響が出る

活動計画（概要）

ありたい地域の姿

ありたい未来

複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイル
で暮らしている人を増やす

◎期待できること

- 放置人工林, 荒廃林の減少
- 林業以外の産業従事者も増える
- 地域経済の活性化
- 町外から買っているエネルギーを町内から買うことができるようになる
- 山を取り巻く課題以外の課題解決にもつながる

- 1. 町内で山林資源を活用・消費ができています
- 2. 山業の担い手が増えている
- 3. 施業地がある

□1. 町内で山林資源を活用・消費ができています

- ・ 町内で山林資源を消費・つかえる仕組みづくり
- ・ 町内事業者へ還元する仕組みづくりができているとさらに良い⇒林業だけ活性化されればよいわけではないから
- ・ _____etc...

□2. 山業の担い手が増えている

- ・ 循環する森づくり、新しい担い手の育成ができる仕組み
⇒新規参入者、町内林業従事者の自伐型林業の研修制度、仕組みをつくる
- ・ 「大月町で山の仕事を」生活がイメージできること
⇒転職・経歴0でやってきた人達にどのように対応するのか？
- ・ _____etc..

移住者
近隣地域おこし協力隊
大月町森林組合
山師さん

具体的な取組

- 西泊地区モザイク林のモデル林づくり⇒新規参入者の研修場所として、また、整備し山を場として活用する
- 情報発信⇒移住を希望している人に「大月町で山の仕事」のイメージを伝える、新たな担い手を探す
(R5年度：山の仕事移住インタビュー冊子の作成)

具体的な取組

- 木質チップ工場併設の木質バイオマスガス化発電所の検討
- チップ工場のみまたは、薪ボイラーの普及（外から買っていたエネルギーを町内で生産・消費できるように）
- 黒炭の生産（R5年窯づくりの研修）
- すきま事業（薪、キクラゲ、しいたけ、ブレンドティーetc...）
- 森を“場”として活用する（森のレンタル、もりのようちえん）
- 地域商社の立ち上げ検討⇒新規参入しやすくするため
- 町内で取引した材の一部の代金を地域通貨で支払い⇒地域経済の活性化

ぼちぼち山業運営チーム
黒炭をつくりたい人
ぼちぼち作ったものを売りたい人
ひきこもり支援団体
山の遊び場をつくりたい人
お茶をつくりたい人
広葉樹すきまワーカー
薪を生産したい人
キノコを生産したい人

□3. 施業地がある

- ・ 山主さんと持っている山の情報がまとまっている
- ・ 山主さんと山師さんを繋げられる
- ・ 適切な施業方法を提案できる（ゾーニングができています）

地区長さん
山主さん

具体的な取組

- 山主さんのニーズを把握する
- 山師さんのニーズを把握する
- 循環する森づくりを提案・行う
⇒ 山師：若い世代が将来施業地に困らないため
・ 山主：先祖代々受け継いできた財産を守る・後世に引き継ぐため
・ 環境：資源を食いつぶさないため
・ 広葉樹の植樹活動：有用樹種を将来的に活用するため

23年3月 ●町：ゼロカーボンシティ宣言
⇒2050年に排出CO₂0を目指して
2030年までの行動目標を立てる

●地域資源・課題の深い中11、ありたい未来の設計
仲間集め、事業のタネを考える

山林資源

手入れされていない山が増えている

山の仕事だけでは収入が安定しない

課題現状

豪雨時に斜面が崩壊しやすくなる

担い手が増えない

町内に仕事が少ない

土砂崩れなど住民生活に支障がでる

山林資源を活用して生業にする人が少ない

土砂の流出は養殖など漁業に影響が出る

山の資源はあるのに活用されていない



活動計画（概要）ーローカルSDGs事業として取り組む内容

ぼちぼち山業運営チーム
黒炭をつくりたい人
ぼちぼち作ったものを売りたい人
ひきこもり支援団体
山の遊び場をつくりたい人
お茶をつくりたい人
広葉樹すきまワーカー
薪を生産したい人
キノコを生産したい人

具体的な取組

- 木質チップ工場併設の木質バイオマスガス化発電所の検討
- チップ工場のみまたは、薪ボイラーの普及（外から買っていたエネルギーを町内で生産・消費できるように）
- 町内で生産・消費できるように
- 黒炭の生産（R5年窯づくりの研修）
- すきま事業（薪、キクラゲ、しいたけ、ブレンドティーetc...）
- 森を“場”として活用する（森のレンタル、もりのようちえん）
- 地域商社の立ち上げ検討⇒新規参入しやすくするため
- 町内で取引した材の一部の代金を地域通貨で支払い⇒地域経済の活性化

1. 町内で山林資源を活用・消費ができています

- 町内で山林資源を消費・つかえる仕組みづくり
- 町内事業者へ還元する仕組みづくりができているとさらに良い⇒林業だけ活性化されればよいわけではないから
- _____etc...

3. 施業地がある

- 山主さんと持っている山の情報がまとまっている
- 山主さんと山師さんを繋げられる
- 適切な施業方法を提案できる（ゾーニングができています）

具体的な取組

- 山主さんのニーズを把握する

地区長さん
山主さん

あり
複数の
で暮ら

- 1. 町内で山林資源を活用・消費ができています
- 2. 山業の担い手が増えている
- 3. 施業地がある

2. 山業の担い手が増えている

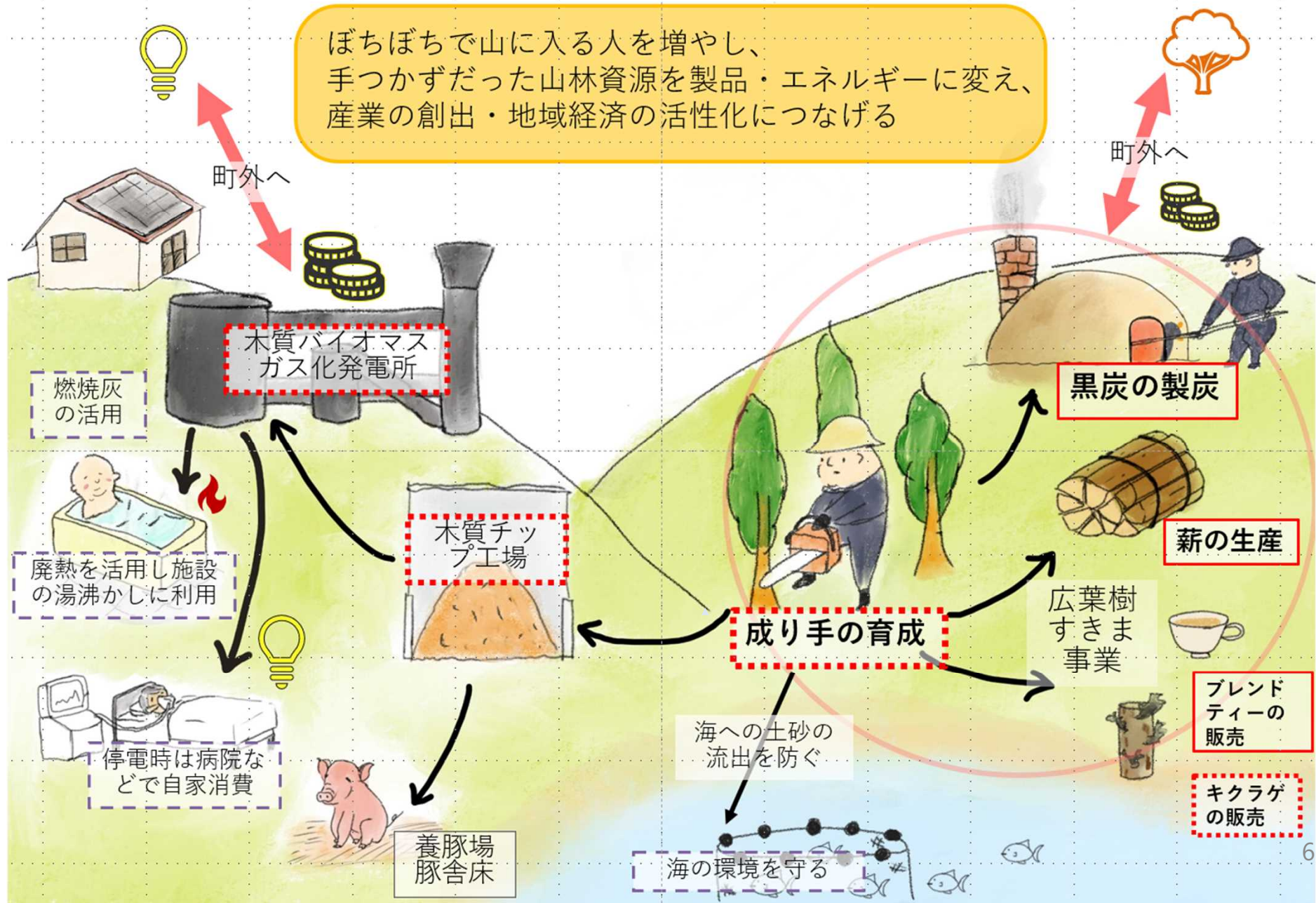
- 循環する森づくり、新しい担い手の育成ができています⇒新規参入者、町内林業従事者の自伐型林業の
- 「大月町で山の仕事をする」生活がイメージで⇒知識・経験0でやってきた人達にどのような
- _____etc..

具体的な取組

- 西泊地区モザイク林のモ

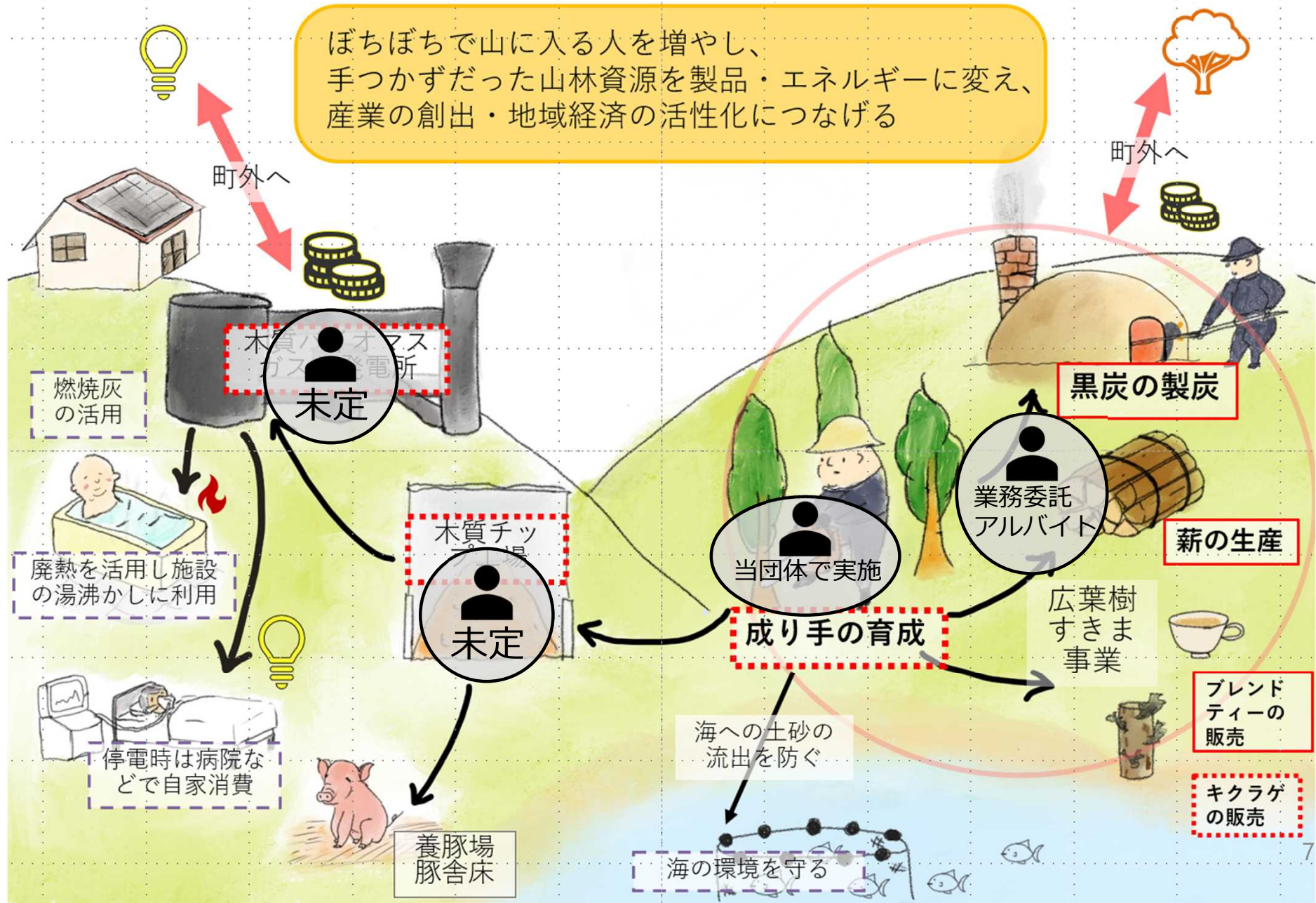
ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細



ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細



3か年状態目標

2026年度末の状態目標

1. 町内で雑木・C材の活用が進んでいる
2. 山業のアントレプレナーが大月に移住、新たな移住者が自伐型林業に挑戦している
3. 山側の地区、海側の地区バランスよく声をかけていく

2025年度末の状態目標

1. もし木質バイオマス導入が断念されたら、薪や炭として活用できるよう町内に雑木・C材の卸場所をつくる（薪ボイラー？）、販路が開拓できている
2. 町内山業に関わる人が増えている
3. 他の地区の山主さんにも山づくりの理解が広まっている

2024年度末の状態目標

1. 町内で広葉樹・C材を買い取っている活動が広まる
1. 町内で木質バイオマスガス化発電が検討されている
2. 外の人を巻き込める絵が描けている(木を伐る人だけでなく、山林資源を活用したアントレプレナーが増えて欲しい)
3. 町内一部地区の山主さんの間で山づくりの理解が広まる
現状声をかけてくれた山主さんを

活動計画 (★PF事業で実施)

ありたい地域の姿

ありたい未来

複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイル
で暮らしている人を増やす

期待できること

- 放置人工林, 荒廃林の減少
- 林業以外の産業従事者も増える
- 地域経済の活性化
- 町外から買っているエネルギーを町内から買うことができるようになる
- 山を取り巻く課題以外の課題解決にもつながる

- 1. 町内で山林資源を活用・消費ができています
- 2. 山業の担い手が増えている
- 3. 施業地がある

1. 町内で山林資源を活用・消費ができています

- 町内で山林資源を消費・つかえる仕組みづくり
- 町内事業者に還元する仕組みづくりができているとさらに良い⇒林業だけ活性化されればよいわけではないから
- _____etc...

3. 施業地がある

- 山主さんと持っている山の情報がまとまっている
- 山主さんと山師さんを繋げられる
- 適切な施業方法を提案できる(ソーニングができています)

2. 山業の担い手が増えている

- 循環する森づくり, 新しい担い手の育成ができる仕組み
⇒新規参入者, 町内林業従事者の自伐型林業の研修制度, 仕組みをつくる
- 「大月町で山の仕事をやる」生活がイメージできること
⇒知識・経験0でやってきた人達にどのように対応するのか?
- _____etc..

具体的な取組

- 西泊地区モザイク林のモデル林づくり⇒新規参入者の研修場所として, また, 整備し山を場として活用する
- 情報発信⇒移住を希望している人に「大月町で山の仕事」のイメージを伝える, 新たな担い手を探す
(R5年度: 山の仕事移住インタビュー冊子の作成)

そのほか*

- 情報発信 (SNS)
- 活動説明資料リニューアル
- SHMTG (講演会同時開催)
- LVL参加
- 幡多自伐型林業者情報交換
- イベント出店

具体的な取組

- 木質チップ工場併設の木質バイオマスガス化発電所の検討
- チップ工場のみまたは, 薪ポイラーの普及 (外から買っていたエネルギーを町内で生産・消費できるように)
- ★黒炭の生産 (R5年窯づくりの研修)
- ★すきま事業 (薪, キクラゲ, しいたけ, プレンドティーetc...)
- 森を「場」として活用する (森のレンタル, もりのようちえん)
- ★地域商社の立ち上げ検討⇒新規参入しやすくするため
- 町内で取引した材の一部の代金を地域通貨で支払い⇒地域経済の活性化

ぼちぼち山業運営チーム
黒炭をつくりたい人
ぼちぼち作ったものを売りたい人
ひきこもり支援団体
山の遊び場をつくりたい人
お茶をつくりたい人
広葉樹すきまワーカー
薪を生産したい人
キノコを生産したい人

地区長さん
山主さん

具体的な取組

- ★山主さんのニーズを把握する
- 山師さんのニーズを把握する
- ★循環する森づくりを提案・行う
⇒山師: 若い世代が将来施業地に困らないため
- 山主: 先祖代々受け継いできた財産を守る・後世に引き継ぐため
- 環境: 資源を食いつぶさないため
- 広葉樹の植樹活動: 有用樹種を将来的に活用するため

23年3月 ●町: ゼロカーボンシティ宣言
⇒2050年に排出CO₂0を目指して
2030年までの行動目標を立てる

●地域資源・課題の洗い出し, ありたい未来の設計,
仲間集め, 事業のタネを考える

山林資源

手入れされていない山が増えている

山の仕事だけでは収入が安定しない

豪雨時に斜面が崩壊しやすくなる

課題現状

担い手が増えない

町内に仕事が少ない

土砂崩れなど住民生活に支障がでる

山林資源を活用して生業にする人が少ない

土砂の流出は養殖など漁業に影響が出る

山の資源はあるのに活用されていない



活動計画

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月																																								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																						
事業全体の予定	キックオフ@高松																															1日																																										
	中間共有会																															1日																																										
	ステーキホルダーMTG																															SHMTG同時開催講演会講師探し&MTG																																										
	情報発信																															Instagram日々の活動報告(フィード・ストーリー)																																										
	活動内容説明資料リニューアル																															内容作成・写真整理・デザイナーさん発注・印刷orWEBで公開																																										
	ローカルベンチャーラボ参加																																																																									
1. 町内で山林資源が活用されている	お茶の販売・営業																															ふるさと納税出品準備			営業資料準備			お茶生産			営業→販売																																	
	黒炭窯を完成させる																															窯づくり			火入れ式																																							
	キクラゲ販売_実証実験																															受入れルールづくり			受入れ																																							
	広葉樹, C材買取→薪の生産_実証実験																															受入れルールづくり			受入れ・薪づくり開始																																							
3. 施業地がある	西泊モザイク林持ち主探し																															ルート上の山主さんが誰かを調べる			ルート上の山主さんと連絡が取れる人を探す			ルート上の山主さんに同意書送付・返送をもらう																																				
	姫ノ井雑木林持ち主探し																															近隣山主さん探し			山主さん交渉																																							
	声をかけてくれた山主さんの情報をまとめる																															随時情報更新&施業地を探している山師さんがいたら仲介(※ただしルールあり!)																																										

検討中
 ・幡多自伐型林業者情報交換
 ・イベント出店

大月ぼちぼち山業プロジェクト

私たちは“ぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる”ことを目指して、R4年より活動しています。

林業の成り手がいない、荒廃林が増えていく、そうすると災害を引き起こしやすくなったり、海に土砂の流出が増えていく、漁業や観光業にも影響がでる、、、大月ぼちぼち山業プロジェクトは、地域が抱える山を取り巻く課題をいろんな人に“ぼちぼち”で関わってもらい、山林資源を活用して生業にする人を増やしたい！そんな未来を描いています。ぼちぼち山業で地域の活性化・産業の創出・減災につなげるのが目標です。

海のまちで山の生業？と思いませんか？透き通るきれいな海は山が適切に管理されてこそ守られます。海も山もある大月の資源を、使い尽くすのではなく“半永久的に”利活用できるように応援していただけたらうれしいです。

※山業とは、山林資源を活用した生業を指した造語です。木を伐るだけでなく、薪づくりや製炭、原木キノコの栽培など山林資源を活用している生業も遊びも含めて山業です。

◎私たちが目指す未来◎

ぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる



◎これまでの活動◎

- ・黒炭生産に向けて、研修・薪づくり
- ・広葉樹のブレンドティー開発
- ・キクラゲ栽培
- ・グリーンウッドワーク etc...

◎今後の活動予定◎

- ・町内で広葉樹の消費を増やす
- ・植林
- ・新たな担い手の育成、研修
- ・さらなる広葉樹木の活用方法を模索
- ・海のまちで山の生業広報活動 etc...

先)
資源活用協議会
プロジェクト
長炭生産組合、大月薪づくり会



BOCHIBOCHISANGYO



bochibochisang...

プロフィールを編
集

アーカイブを見
る

広告ツ
ール

投稿29件 フォロワー103人 フォロー中79人

大月ぼちぼち山業プロジェクト(NPO法人大月地域資源活用協議会)
大月の山を取り巻く課題をいろんな人に“ぼちぼち”で関わってもらい、山林資源を活用して生業にする人を増やしたい！
そんな未来を描いて活動しています。

過去30日間に203件のアカウントにリーチしました。インサイトを見る



新規

投稿

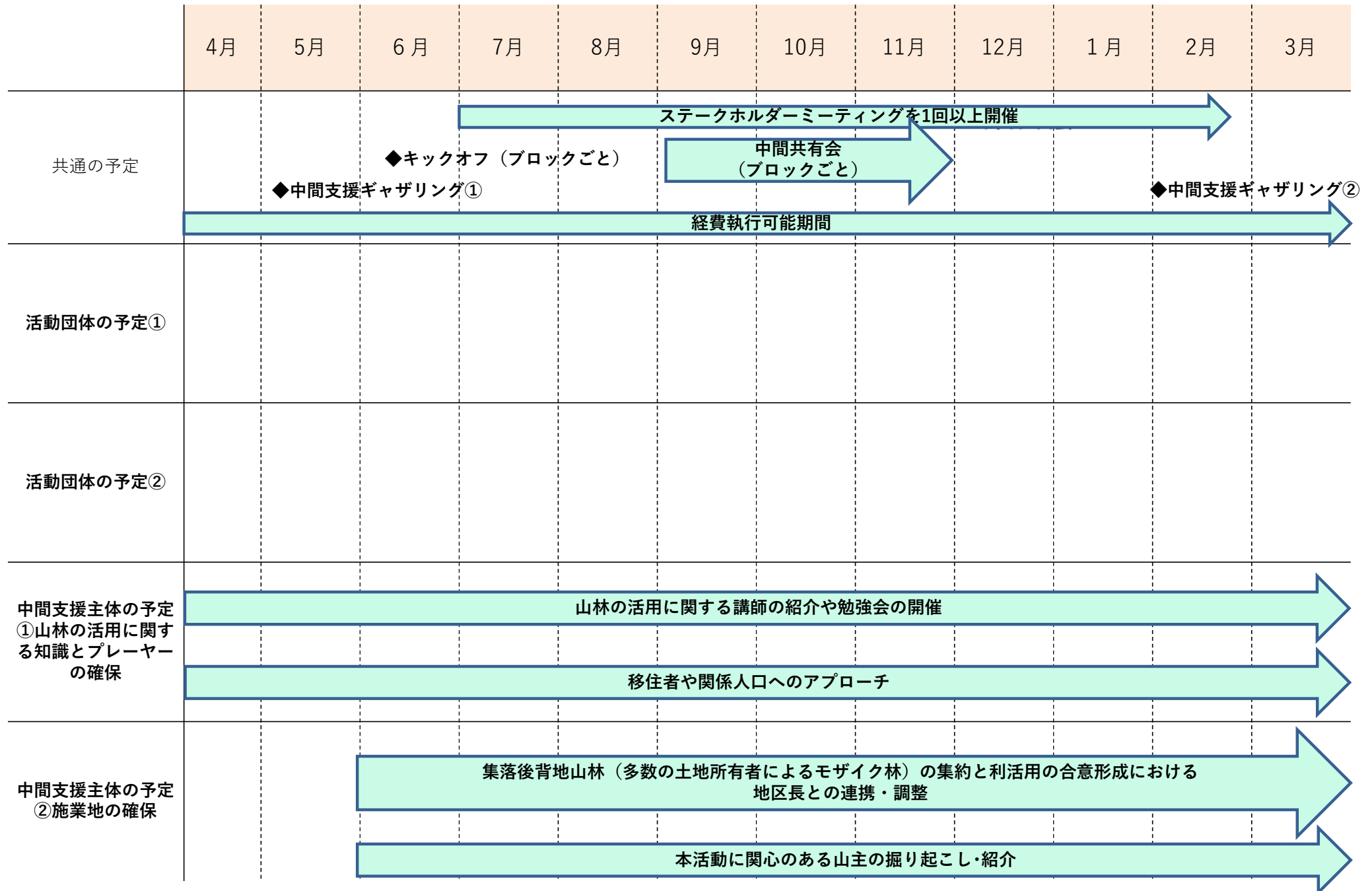
ルール

保存済み

タグ付けされている人



活動計画



中間支援主体より

中間支援主体の紹介

「四国海と生き物研究室」は主に南西日本の海の自然再生や生物多様性保全、気候変動の緩和や適応に関するコンサルタント業務を実施してきた岩瀬の個人事務所。海の環境保全は流域の自然環境が健全でなければ成り立たないため、近年は山林の持続可能な活用による環境保全にも取り組んでいる。

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

活動が3年目にはいり、黒炭や薪づくり、お茶やキクラゲなど新たな特産物の開発による生業づくりの**短期目標**に加え、雑木林の多い大月町で、樹種を選ばない木質バイオマスを活用したエネルギー生産によって、地域の外に支払っていたエネルギー対価を地域内に支払うことによる地域経済の活性化を目指す**中期目標**など、将来的に目指す**「ボチボチ山業」**の姿が明確になってきた。チームのコアメンバーはそれぞれの立場を活かして目標に向かって主体的に取り組んでいる。

しかし町役場をはじめ町内の林業関係者や山林所有者をはじめとする町民の多くは「山はお金にならない」「林業で飯は食えない」という既成概念にとらわれており、活動の輪が容易に広がっていかないことが大きな課題である。

そのため、役場職員や山林所有者をターゲットとした勉強会などを開いて成功事例を紹介し、多様な価値観を持つ移住者や関係人口とのコミュニケーションを密にして活動の輪を広げることによってプレイヤーを確保する支援を行いたい。